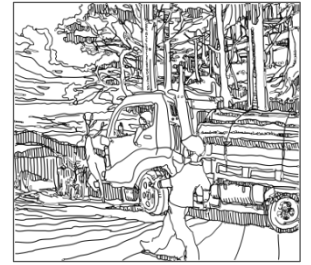


No.8

京林大だより



絵:京林大生 熊走君

～研修科（林業トレーニングコース）スタート!!～

6月3日(月)に「林業トレーニングコース」を開講し、30日間の研修が始まりました。

林業トレーニングコースには、受講者4人が各事業体から参加していますが、フォレストワーカー12人と共に開講式の後、記念講演を聴きました。



研修では、間伐、下刈り、マツタケ山環境整備等林業に関する各専門家から、基本的な知識や技術の指導を受けています。

作業の効率化を図るため、高性能林業機械の導入が進められているため、伐採や搬出には、より専門技術を持った林業の担い手が必要であり、民間の教習機関から、各種の技能講習や特別教育を受けて、各種機械の操作資格を取得しています。



地元産木材の利用は大きな課題であり、近隣の木材産業を見学し、流通加工の現状や今後の利用対策を学んでいます。

今年度の「林業トレーニングコース」は7月16日(火)に閉講する予定です。受講生の皆さんは京都の林業の未来を担う人材として活躍されることを期待しています。

『未来の林大生(?)がきてくれました♪』

6月11日(火)和知小の子ども達が林大に来てくれました。

「町たんけん」という、和知小学校2年生の生活科の授業です。もっと知りたい、詳しく調べたいという子ども達の気持ちを大切にしています。

今回の題材は「地域について知る」でした。昨年から和知の一員となった林大を訪ねてくれたことが嬉しいです。後日・・・子ども達から心のこもった「お礼のお手紙」が届きました。ありがとうございました。



ドイツに

林業専攻2年 大河原 涼

ドイツは16の州に分かれていて、それぞれに独自の森林法がある特徴的な国でした。また、ドイツには林道がたくさんあり、大型の観光バスが楽に通れるしっかりした道だったことに驚きました。



ドイツの林大生が120年生のトウヒを伐採するところも見学しました。その他にスチール(チェーンソーメーカー)の工場見学、森林官の講話、名所観光をするなど盛り沢山で、とても有意義な研修旅行でした。

行ってきました



予告

★オープンキャンパス記念講演★

日時：8月3日(土) 13:00～14:00

場所：わちふれあいセンター1階アリーナ

講師：校長 只木 良也

本校校長の只木良也が、第62回伊勢神宮御遷宮にあたり「ヒノキ文化」を切り口に語ります。暑い時期ですが、皆様方、万障お繰り合わせの上、御来場ください。(予約不要・参加費無料)

※詳しくは林業大学校にお問い合わせください。



校長室より

『伊勢神宮御遷宮、もったいない？』

今年は20年毎の式年遷宮の年。それは7世紀持統天皇の御代から、原則20年ごとに繰返され、本年第62回目の、伊勢神宮の正殿などの建物から調度品まですっかり新調し、御神体を新しい宮へ遷す行事です。

なぜ20年ごとの御遷宮？一言で言うならば、日本人の潔癖で清潔好きの性格が、白木造りに結晶したものと言えましょう。しかしながら、御遷宮1回に最高のヒノキ材13,800本が必要と聞けば、20年毎に建て替えとは何と贅沢な勿体ない話という感じがします。法隆寺は1,300年以上も持たせているのに...？

しかし、伊勢神宮の20年を経て解体された古い材は古来から見事に、現代語で言えばリユース・リサイクルされてきたのでした。例えば、内宮正殿

京林大のヒミツ

— 地元にとけ込む！？ —

『ブルン!ギョーン!』



静寂な小学校の校庭に響くチェーンソーサウンド。

6月23日は和知小学校の日曜参観日。授業参観が終わり全校生徒と保護者が集まったホールで、林業大学校生6名がチェーンソー操作のパフォーマンスを行いました。これ、実はゲームなんです。小学校の縦割りグループ12班対抗ゲーム、ルールは実に単純で、切った丸太の重さが1kgに最も近いチームが優勝です。子ども達が丸太にチョークで線を引き、その線を正確に林大生がチェーンソーで切り、切れた丸太の重さを測りました。



上位チームにはPTA会長から金メダルもたじたじの「木メダル」が贈呈されました。

今回の行事是和知小学校PTAのお声かけて、晴れ舞台に立たせていただきました。刃物がむき出しで回転するチェーンソー、その動きを子ども達に安全に見てもらうため、先生、PTA役員の皆様と打合せを重ねました。

小学校の持つ、子どもたちの安全確保のノウハウと、林業大学校の持つチェーンソー安全使用のノウハウを融合して、安全で迫力のあるイベントに仕上がったと思います。まさに地域から学ばせていただきました。こうした行事が末永く続くことを祈ります。

の棟木を支える柱(棟時柱)は、解体後、五十鈴川宇治橋の鳥居に、さらに20年後には桑名の七里の渡しの伊勢路入り口の鳥居に使われる慣わしとか。他の古材についても、末社の他、全国の神社の建て替え用材に重宝され、何しろお伊勢さんの材ですから引く手あまた、順番待ちの行列がある有様と聞いています。古材はさらに、調度品や細工物、神棚などにも使われ、小さな端材もお守札にと無駄なく再利用されるのでした。

それに20年は、御遷宮諸技術の、師匠から弟子への伝承に最低限必要な年数なのではないでしょうか。名古屋の熱田神宮も、20年毎ではないが、御遷宮には伊勢の古材を貰う、とのこと。ただし熱田神宮は三種の神器の鏡(伊勢の御神体)に次ぐ剣を御神体とする伊勢の弟分だけに、順番待ちなくトップ優遇とか。(校長 只木良也)